

## 東郷 放課後等デイサービス施設で授業



学生たちと一緒に「生態系8並べ」で遊ぶ子どもたち＝東郷町和合の「ひなたぼこ」で

# 生物多様性通じSDGs学ぶ

東郷町和合の放課後等デイサービス施設「ひなたぼこ」で二十八日、愛知教育大（刈谷市）の学生団体「SAGA（サーガ）」の学生五人が国連の持続可能な開発目標（SDGs）に関する出前授業を行った。

同団体はSDGsの普及啓発を教育面から後押しするため、二〇二〇年四月に発足。SDGsの考え方を伝える教材を開発したり、県内の小中学校で出前授業を実施したりしている。

教材の一つが、「カワセミ」のくちばしを参考に、先頭車両の空気抵抗を減らした「新幹線」、光の映り込みを抑えようと「ガ」の目をヒントに表面を加工した「フェースシールド」など、動植物と技術のカードを組み合わせて遊ぶ「バイオミミクリートランプ」

だ。多様な生き物があることで、さまざまな技術が生まれる点に気付いてもらうのが狙い。

出前授業には施設を利用する小学二年―高校三年の十六人が参加。バイオミミクリートランプや、森、海などの生態系を紙コップで表した「生態系8並べ」と

いったゲームを通して、生物の多様性などを学んだ。教員を目指す細見洗旗さん（二〇）三年は「障害のある子どもたちへの授業は初めて。簡単なゲームを選んだり、視線や声掛けを工夫したりした」と手応えを話していた。

（平木友見子）